

日本科学者会議 京都支部ニュース

7月号 No. 389

2016年7月12日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 延寿堂南館3階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名：四四八（読み ヨンヨンハチ）、店番：448、預金種目：普通預金、口座番号：0280018

目次

- ◆ 学術会議への申し入れ（案）日本学術会議は軍事研究反対の立場を堅持せよ……………2
- 7・10「軍学共同に反対する会」の報告……………3
- ◆ JSA 活性化討論会（6/25）の報告……………3
- 関西技術者研究者懇談会6月例会（6/12）「福島原発事故と小児甲状腺がん」……………5
- 『日本の科学者』読書会6月例会（6/15）報告……………6
- 第17回「自然科学懇談会」（7/2）—福島原発事故と科学者の責任—に出席して……………7
- 寄稿：21 総学・女性研究者技術者分科会と交流会について—速報2—（清水民子）…8
- 寄稿：僕の遺言（須田 稔）……………9
- ★ 支部関連行事の案内……………11
- ◆ 2016年度第1回近畿地区サポーター会議報告……………12
- ◆ 幹事会・ワーキング会議だより……………12
- ◆ 「近畿の催し物の案内：JSA 近畿No.87.20」……………14

今年度会費の納入をお願いします！

京都支部財政は5月1日より新会計年度に入りましたが、お陰さまで6月末で約5割の一般会員が今年度会費を納入されました。引き続き会費の納入にご協力願います。若手会員の納入が今一つなのが気がかりです。振込用紙は5月号の支部ニュースに同封しました。

年間会費は、一般会員：14,400円、家族割り会員：4,200円、若手会員：6,000円、若手特別会員：4,200円です。（財政担当幹事）

学術会議への申し入れ（案）

日本学術会議は軍事研究反対の立場を堅持せよ

先の戦争で、科学者は、軍に協力して、あるいは協力させられて、軍事研究を行いました。戦後の日本の学術活動は、科学者の戦争協力に対する痛切な反省の上に立っています。日本学術会議は、1950年、「戦争を目的とする科学の研究には絶対従わない決意の表明」をしました。これが戦後の科学者運動の原点です。日本科学者会議もこの精神に沿って活動してきました。

ところが安倍自公政権は、集団的自衛権行使を可能にする「戦争法」を強行し、さらに憲法九条を改悪して、日本を再び戦争する国にしようと企んでいます。大学・研究機関に対しては研究費をエサに軍学共同を押し付けてきました。私たちはこれを絶対に認めることはできません。

大学・研究機関の軍学共同化について、日本学術会議の大西隆会長が、私見としながら、個別的自衛を目的とする研究なら許される、との見解を発表しました。これは明白に先の学術会議の決意表明に反します。私たちは、大西会長の見解に断固抗議し、撤回を要求します。

軍事研究に関する学術会議検討委員会の初会合（6月24日開催）で、大西会長は、研究成果が民生にも軍事にも利用できるデュアル・ユースを広くとらえる議論が必要だ、と発言しました。それに対して、井野瀬久美恵副会長は、防衛省が資金を出す研究にデュアル・ユースという言葉が使えるのか、と疑問を呈しています。科学・技術のデュアル・ユース論は、単に科学・技術が戦争に役立つということを言っているに過ぎません。国家権力が科学者・技術者を軍事研究に引きずり込む論理として、デュアル・ユースを持ち出すのは極めて陳腐な常套手段です。

憲法九条により日本国民は「武力による威嚇又は武力の行使」を永久に放棄しました。それゆえ、武力のための研究、つまり軍事研究は、明らかに憲法に違反します。そもそも、人間の殺傷を目的とする研究はヒューマニズムに反します。

学術会議には、引き続き、戦争を目的とする科学の研究に絶対従わないという決意を堅持するよう強く要請します。同時に私たちは、憲法の改悪に断固反対します。

2016年7月10日（日）

日本科学者会議京都支部「軍学共同に反対する会」

「軍学共同に反対する会」の報告

世話人・前田耕治（京工織大分会）

7月10日、京都支部の有志で、「軍学共同に反対する会」の初会合が開かれた。入会予定者1名を含めて12名の会員が参加した。呼びかけ人の宗川氏から、「軍学共同反対の運動を担える組織はJSAにおいて他にはない。今日は基調講演などを予定していないので、それぞれの思いのたけを語り合しましょう」との趣旨説明があり、一人ずつ自己紹介を含めて「軍学共同反対」に関する思いを語った。

話題としては、下記のようなものが紹介された。1960年代の京大での自衛官入学阻止闘争で総長交渉を行い「敷居を高くする」確認を得たこと。自衛官入学反対の根拠が2重身分であって憲法違反ではなかったこと。半導体研究への米軍予算支援問題に端を発し、日本物理学会の軍事研究反対声明があがったが、風化しつつあること。京大の宇宙物理や化学教室では産学共同が問題とされたこと。産学共同も徐々に大学内で容認されていき軍学共

同もハードルが低くなっていること。軍学共同は自然科学だけの問題ではなく人文・社会科学系も関係すること。従軍カウンセラーもいるという心理学的アプローチ。戦争と社会福祉の関係。デュアル・ユースと軍学共同禁止の線引きの関係。先の戦争の何を反省するのかという視点。自治の喪失や研究費の削減により軍事研究に取り込まれやすい現在の大学の状況。秘密保持と学生の発表の機会の喪失、など。

以上、全員トークが2周したあとに、「学術会議への申し入れ（案）」について検討した。軍事研究反対の理由として、憲法9条以外に、主権在民やヒューマンイズムの視点を入れるべきという意見があり、そのほか、文言のチェックなどを行った後、別紙のとおり文案を承認した。今後は、支部の一分会として活動を継続することを確認して、閉会とした。

JSA 活性化討論会の報告

宗川吉汪

表記の会合が6月25日（土）10：30～1中央大学理工学部（後樂園キャンパス）で開催された。主催はJSA組織改革特別委員会。出席者はおよそ20人。午前に意見表明、午後はフリートーキングであった。

午前の司会は特別委員会の松田さん（愛知）が務めた。井原さん（事務局長）のあいさつの後、松永さん（東京）が、本討論会の趣旨が不明、と発言。東京支部は全国事務局のいうような「JSAの存続の危機ともいえるべき事態に直面している」という認識はない、との

こと。エッ、ナニソレ。続いて、嶋田さん（宮城）は、逆に、JSAが危機にあるとの認識をナガナガと述べた。運営が役員任せ、総合研究ができていない、「日本の科学者」はおかしい、などなど。発言があまりに長いので、私はついたまりかねて、もっと簡潔に、と言ってしまった。竹森さん（岐阜）が会則に沿った運営を訴えた。東（岩手）さんは、財政問題の責任を明確にせよ、責任ある人たちの自主的抛出で欠損金を埋めろ、との岩手支部の主張を紹介した。北村さん（東京）はすでに

決着済みの法人化問題を蒸し返した。つづいて宗川が、会則改正案を提出した。主な改正点は、(1) 全国と支部の関係を明確化し、支部の自立性を高めた。(2) 支部の分会規定を削除。(3) 地区の位置づけを明確にした。(4) 全国幹事会は、主に事務局役員と地区担当幹事から構成されるとして大幅に縮小。(5) 代表幹事は、会を代表しかつ実務の責任者であるとして、事務局長は廃止。(6) 従来の代表幹事および参与は廃止し、代りに名誉会員を置いた。以上、私の発言は13分。午前の最後に、田島さん(鹿児島)が、拡大と日常活動の重要性、退職会員と現役会員の効果的協力関係の重要性を訴えた。

午前の発言で、地方と東京との温度差を感じた。JSAも日本全体の現状を反映しているようだ。地方は、ホントに疲弊しているのだ！

午後は特別委員会の橋下さん(静岡)が司会。冒頭、会則改正について討論したい、と提案した。ところが、JSAの「存在意義」を討議すべしとの強力な反対があつて、提案はアエナク消滅。その後、ズルズルとJSAのグチを聞かされるはめに陥った。結局、何が問題なのかも分からない発散した会議になってしまった。実務的な会議かと思つて出席したのが間違いだった。これではヤッパリJSAは救われない。

印象に残った議論を二つ。一つは、特別委員会が用意した文書をめぐつて。ナント、「組織部長 近藤宏一」署名の「JSAの今後のあり方についての検討結果(答申)」(2003年)が配布された。亡霊がよみがえった気がして、

率直にそのことを発言した。すると、前組織部長の亀山さん(沖縄)がイキリ立って、この文書に従つてこれまでJSAは運営してきたんだ！！ナニが悪い！と言わんばかりの発言だったので、たまりかねて、もう良いから、と私が発言を制止しようとしたら、不規則発言はヤメロ！と大声でエンエンと演説。ヤレヤレ。だからJSAがダメになったのが分からないのだろうか。横領事件が起きたのは何故なんだ。4000人を割るまでに会員が減少したのは何故なんだ。東京はいざ知らず、地方のJSAが疲弊したのは何故なんだ。この文書を起草した人(たち)は自分(たち)が文書で提起したことをその後どれだけ自ら実践してきたのか。「有口無行」、それこそがJSAをダメにしてきたのではないのか。

もう一つ。北村さん(東京)が東京支部で数年前に起きた入会申請拒否問題を取りあげ、思想信条を理由に入会を拒否した、と東京支部を非難した。東京支部事務局長の松永さんが直ちに反論。東京支部幹事の池上さんも、支部幹事全員で決定したこと、と発言。北村さんは、会則第5条の「入会には支部の承認を要します」を理解していないのか。全国の会議で、東京支部の内輪モメを聞かされた。ホント、東京はダイジョウブか。

イライラが嵩じて帰りの新幹線でお腹が痛くなった。眠つて醒めたら京都で、ホッとした。

関西技術者研究者懇談会 6 月例会 福島原発事故と小児甲状腺がん

日時：2016 年 6 月 12 日（日）14 時～17 時

場所：JSA 大阪事務所 参加者：14 名

福島原発事故と小児甲状腺がん

宗川吉汪氏

福島県では県民健康調査「甲状腺検査」を行い、福島第一原発の事故で放出された放射線が 19 歳未満の子どもたちの甲状腺に与えた影響について調査している。

1986 年旧ソ連で発生したチェルノブイリ原発事故では、事故後 3 年目から小児甲状腺がんが急増した。その結果から、福島でも 2011 年～2013 年の 3 年間はがん発生に、原発事故の影響がないという前提で先行検査を行い、事故の 3 年後からは 2 年ごとに本格検査として、甲状腺がん発症に対する原発事故の影響を調査している。つまり先行調査での甲状腺がんの発症率と、本検査の発症率を比較すれば、原発事故の影響が分かるはずである。

小児甲状腺がんはチェルノブイリ原発事故でも、唯一放射線の影響で発病したと認められた病気で、放射性ヨウ素 131 と甲状腺がんの関連は明らかであり、福島でもこれに習って調査を実施している。

2016 年 6 月 6 日、福島県は東京電力福島第一原発事故当時、18 歳以下(胎児を含む)だった県民を対象に、2 巡目（本格検査）の甲状腺検査の結果を公表した。それによると、2016 年 3 月 31 日時点で 57 人が甲状腺がんと診断された。先行検査とあわせると小児甲状腺がんの患者は 172 人になった。

統計学的手法を用い分析した結果は、小児

甲状腺がんの発生率が先行検査に比べて本格検査で 3.54 倍と大きく増えていることが判明した。この結果は、小児甲状腺がん多発が原発事故によって引き起こされたことを示している。

しかし福島県は、これまで通り「放射能の影響とは考えにくい」という見解を述べているが、その根拠はしだいに揺らぎつつある。福島県の否認の背景には、国際原子力機関（IAEA）が原発事故による小児甲状腺がんの増加を絶対に認めたくないという意向が働いている（チェルノブイリ原発事故ではしぶしぶ関連性を認めた。）

討論

- ★この調査方法では放射線の強さの要素が入っていないため、放射線量に関する疑問の入り込む余地がない。
- ★小児甲状腺がんについて発言することは、福島県民をはじめ、多方面からタブー視されている。
- ★県と国は小児甲状腺がんの原因が原発事故だと認め保障すべきだ。
- ★チェルノブイリでは小児甲状腺がん以外にも、心臓欠陥など放射線によると思われる病気が多発している。

これからの日程

7 月 10 日(日)「7 3 1 ツアー」に参加して

山口進次 氏

(文責・山口進次)

『日本の科学者』読書会6月例会
エネルギー自立社会構築に向けて
大学はいかに地域のモデルになり得るか

標記例会が6月15日午後3時より支部事務所で開かれた。参加者5名。5月号特集より以下の3篇の論文が取り上げられた。

平田仁子「気候変動の抑制に向けた長期目標と省エネの意義」(報告者 宗川吉汪)

論文を紹介しての感想：パリ協定で、今世紀中にCO₂の排出をゼロにする目標を決めた。そのためには省エネが極めて有効である、といわれている。省エネは“第1の燃料”といえるほどの効果がある。筆者は、日本では、省エネのポテンシャルが過小評価されている、と指摘している。確かに、政府は省エネに消極的のようだ。しかし、思い返してほしい。日本の原発がすべて停止した、2013年9月から2015年8月までのほぼ2年間、電力不足にはならなかったが、その一番の理由が、省エネであった。本論文でそのことをもっと強調してほしい。

吉田友紀子「大学での省エネ技術—建築分野におけるZEB化と取り組み事例の紹介」(報告者 山口進次)

大阪大学会館における、ZEB (Net Zero Energy Building) 化の事例を紹介。

この建物は国の登録有形文化財建造物に指定されたものであるが、2011年に改修工事が行われた。この時、耐震工事と同時に創エネ、省エネの改修工事を実施した。

建物の高断熱化と照明の最適化、空調機の高効率化などにより、屋上に設置した太陽光発電のエネルギーで自給率は64%を達成した。

田浦健朗・山本 元「大学における省エネ・温暖化対策の現状と課題—京都における調査の事例から」(報告者 鈴木博之)

京都府と京都市の温暖化対策条例では、エネルギー使用量、CO₂の排出量の報告と削減計画を義務付ける「計画書制度」があり、その対象となる11法人12大学の省エネ・温暖化対策の調査結果を報告・検討した論文である。

12大学の排出量は、京都府の1.5%、京都市の2.5%であり、特に京大は府庁、市役所、市上水道と並ぶ4大排出源となっている。2012年度における12大学の総排出量は19万t-CO₂で、2010年度よりは10%削減されており、京大がその50%、同大14%、府立医大11%、京産大6%、立命館5%、龍谷大4%の順となっているという。

本調査では、12大学のキャンパス毎の比較をするために、独自に床面積の調査を行い、床面積あたりのCO₂排出量で比較している。キャンパスを「病院を含む」「主に理系学部」「主に文系学部」のキャンパスに用途別に区分し、総排出量と床面積比排出量の3年間の推移を検討し、病院を含むキャンパスでの改善が進んでいるとしている。

今後の削減対策として、文系・事務・理系・大学病院における共通の対策としては、照明・空調設備の省エネ型への更新が対策の中心となり、新築の際が設備・建物ともに対策の好機である。理系学部・大学病院の特有の対策としては、特に実験設備の省エネが重要

で、やはり新築の際が好機であるが、研究上の機能を重視してオーバースペックになることなく、エネルギーでも効率的なパーツ・配置にする必要があると指摘する。また、類似のキャンパスでも差があるのは、機器のエネルギー効率、建物の断熱効果の差であるので、計画的な省エネ設備投資が必要としている。

（感想）本特集は、ともすれば大学の管理部門に任せきりとなっている風潮の中で、教員や学生の意識改革を迫る、時期に合った特集であると感じた。ただし、図や写真の多い特集であるのに、図の凡例の判読不能やピンボケ写真の図が多いことが理解を妨げた。

第17回「自然科学懇談会」 —福島原発事故と科学者の責任—に出席して

去る7月2日の土曜日午後1時半から、標記の集まりが京大楽友会館第1,第2会議室で開かれ、参加者は12名だった。

先ず山田耕作京大名誉教授が1時間あまり「福島原発事故と科学者の責任」と題して多数のスライドを使って講演された。山田氏は、話の初めにご自身のことに少し触れられた。10年前に定年退職するまでは、磁性と超電導の研究をしてこられたそうだが、2011年の福島原発事故を見て、自主・民主・公開の三原則の下にこれまで原子力の平和利用を進めてきた物理学者の一人として、これまでを反省され、ご自身にできることとして、放射線被ばくの問題に取り組んでいるとのことだった。

講演の最初に、原発利用は時代遅れであり、エネルギー大転換の時代を迎えて、世界の趨勢は、化石燃料と違って消滅することのない太陽光や風力のような自然エネルギー利用にあることを、図を示して強調された。そして次の講演の話題として、科学者は福島原発事故に対して責任があること、福島原発事故による被ばく被害の現状を明らかにすること、放射線被ばくの争点を明らかにすること及び

私たちの課題が、子供たちの未来のために、避難の権利を確立すべきところにある、との4項目を挙げて、それぞれについて資料を基に主張された。

環境省が2014年12月22日付けで出した「福島第一原発事故に伴う住民の健康管理の在り方に関する専門家会議」の「中間とりまとめ」には、放射線による被ばくの影響が住民には将来に涉って認められないとの見解がまとめられている。これは、政府・東電の事故の責任を隠ぺいするためのお墨付きを与えるためのものであり、このよう役割を果たす専門家・科学者は許されないと主張された。

また、児玉一八、清水修三、野口邦和共著による「放射線被曝の理科・社会」という書物を取り上げて、その一節に述べられている「そういった低線量領域で細胞の中で起こることを踏まえると、放射線被曝によってガンになる人が目に見えて増えることはないだろうと私は考えています」という無責任な予測をすることは、科学者として許されないし、これは国際的な合意である「予防原則」にも反することであり、被害が生じたとき如何に責任を取るのかと厳しく非難されました。

最後に、「福島原発事故では何も被害はないのか」検証するとして、子供の甲状腺がんの多発、自然死産率の上昇、心臓疾患の増加、周産期死亡率の増加、体力、免疫力の低下による多くの疾患の増加について、資料を示してこれらの概略を示された。中でも強く印象に残ったのは、岡山大・広島大・熊本学園大グループによる「低レベル放射線暴露と自覚症状・疾病罹患の関連に関する疫学調査」からの資料であった。コントロール(対比対象)として滋賀県木之本町を選び、福島県双葉町と宮城県丸森町の住民における自覚症状・罹

患率の比較を行うと、7つの自覚症状の一つ「鼻血」は木之本町の1に対して丸森町と双葉町住民に3.5倍もあったことでした。声高に言われた「鼻血が出るなどありえない」との見解が、実測値とは異なることをデータは示していた。

講演後の質疑討論では、電力自由化の問題、自分の家は関電から大阪ガスに替えた(2人)、低線量被ばくに関する高名な科学者の破廉恥な発言など、沢山の意見の交換があり、予定の2時間を超える盛会だった。

(文責・富田道男)

寄稿：21 総学・女性研究者技術者分科会と交流会について—速報2—

前号でお知らせした「概要」の完成版です(詳細は第3サーキュラー参照)

(1) 女性研究者技術者分科会(9月4日午前開催)

朴木佳緒留：本分科会開催の趣旨説明

小畑千晴：子育てをめぐる女性研究者の現状と課題—臨床心理学の立場から—

服部敬子：3人子育て中の『問題』生起とその克服—同僚と保育園、ママ・パパ友に支えられて—(注、京都支部、府立大学の現職です)

小尾晴美：研究職1年目のWLB上の課題—『保育労働』を研究対象にする女性研究者の立場—

岸田未来：出産・子育てをどう考えるか—子育て中の女性研究者の立場から—

(2) 女性研究者技術者交流ランチセッション(9月4日13:00~開催、会費500円)

男女を問わず、どなたでも参加できます。

事前に予約をお願いします(以下のいずれかへ)。

連絡先：E-mail：福島知子 t-fukushima@crocus.ocn.ne.jp

Fax:清水民子 075-752-5107

(3) 保育室について

21総学では保育室を用意しています。利用希望の方は第3サーキュラーにより、事前にご連絡ください。

(文責・清水民子)

1945年8月15日のポツダム宣言受諾・無条件降伏から71年、11月5日に85歳になる僕の遺言を聴いてください。

僕が生まれる2年前に労働党代議士山本宣治が右翼青年に刺殺されました。治安維持法違反の極刑を死刑にすることに反対し戦争反対を貫く日本共産党に対する凶暴な弾圧に抗議していたからでした。「山宣ひとり孤塁を守る だが私は淋しくない。背後には大衆が支持してゐるから」という言葉を遺しています。僕が生まれて2年後に、『蟹工船』で知られる作家小林多喜二が警察署内で特別高等警察に虐殺されました。

そして僕が生まれる50日ほど前に、日本政府は中国東北の満州で戦争を起こしていました。中学2年生の夏まで、侵略戦争の時代、僕は模範的な軍国少年に育っていました。学校教育に育てられたのです。日の丸・君が代・教育勅語・宮城遥拝・最敬礼・「修身」・朝鮮人中国人蔑視・「海ゆかば」・歴代124代の天皇の名前暗誦。中学校では軍事教練で突撃訓練。「天皇陛下の御ために戦場で戦死するのが大和男児の生きる道だ」という訓示。

敗色濃くなり夜間無差別焼夷弾空襲の恐怖、そして飢餓の日々。敗戦の3か月前に20歳になった6歳上の兄が召集令状受けて出征兵士になりました。「祝出征須田久重君」「祈武運長久」と書かれた二本の幟。国防婦人会というタスキがけの女性たちが日の丸の小旗を打ち振り、「勝ってくるぞと勇ましく誓って国を出たからは手柄（敵兵を殺すこと）たて

ずに死なりようか」と駅まで見送ったのです。関節リュウマチで歩行不自由な母は家に残っていました。帰宅した僕が見たのは嗚咽する母の姿。「おかあちゃん、ナイトラアカンやんか、非国民やで」と睨みつけたのでした。

軍隊に召集されるのはおめでたい事、喜ぶべきことだったのです。命は鳥の羽よりも軽いと教えられていましたが、母親は産み育てた息子が遺骨で帰ってくると思えば、今生の別れかと嘆き悲しむのは当然でしょ。そういう人情を察することもできずに、「非国民」という最大級の罵りを浴びせた僕でした。

天皇制軍国主義教育は僕を見事に育てたのです。が、これは過去の話で終わらないのです。

「特定秘密保護法」「盗聴法」「武器輸出緩和」「集団的自衛権容認の閣議決定」「安保関連法制＝戦争法の強行採決」「毎年5兆円の軍事費」「原発再稼働でウラン生産継続」「植民地支配と侵略戦争の責任不履行」そして「日米血の同盟＝一蓮托生の絆＝戦争中毒アメリカとの共犯関係の深化」。こういう状況で、「反日分子」や「非国民」という言葉が大ぴらに使われる最近の動向で、「ああ戦争が廊下の奥に立っている」と実感するのです。麻生副総理の「ナチの手口に学んだらどう」と全権委任法を示唆。警戒したら案の定、「緊急事態条項を憲法に」と公言するに至って、慄然となります。そうです。戦争か平和かの分かれ道にあるのです。軍事研究する大学や研究者には特別に研究費を出す、経常費や一般の研究

費を削減しておいて、軍事研究を優遇するのは、ペンを奪って銃剣を持たせたあの学徒出陣を思い起こさせますね。「経済徴兵」もです。

日本国憲法の前文の一節、皆さん、すごく崇高な理念だと思いませんか。「われらは平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において名誉ある地位を占めたいと思ふ。我らは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」

この希求は僕の理念ともなりました。夢想でしかないという人もいるでしょう。マーティン・ルーサー・キング牧師が、リンカンの奴隷解放令から 1000 年も経つのに、人種差別はなくなっていない。しかし私には夢がある。いつの日にか、人種平等が実現する日が来るという夢だ、と語りました。白人警官による黒人青年射殺が頻繁に起きる今日ですが、黒人大統領の誕生という画期的進歩もあります。ジョン・レノンが「イマジン」で、夢想家と言われようが、僕の理念をうたうのだと語ったように、歩みは遅々としているのですが、あきらめない、へこたれない、屈しないで、「未来を信じ未来に生きる」で行きましょうよ。

キング牧師がヴェトナム戦争に反対する演説を 1967 年 4 月 4 日に NYC の教会でしました。「沈黙が裏切りになるときが来ました」と勇気を奮って決断したのでした。

彼は「今日の世界で暴力の最大の調達人である私のアメリカ政府」と告発し、「社会の向

上よりも軍事費に毎年多額を使う国は精神の死滅に近づいているのです」と断罪しました。この痛烈な批判のゆえにか丁度一年後に暗殺されました。

最近では、世界的な言語学者で政治思想家でもあるノーム・チョムスキー教授は、「アメリカは世界最強のテロリスト国家だ」と断言します。同盟の相手の正体を見抜いておく必要があります。オバマ大統領が核兵器のない世界を語りながら、この先 30 年かけて 1 兆ドル（110 兆円）で核兵器の近代化を計画するというのです。この偽善・欺瞞に怒りを覚えます。

だが、僕はあきらめない。許さない。夢があるから、この理不尽を憤るのです。

素晴らしいメッセージと思うので、是非、紹介したいのです。「自由と平和のための京大有志の会」が書いたのです。卒業生として誇りに思います。

戦争は、防衛を名目に始まる。

戦争は、兵器産業に富をもたらす。

戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

戦争は、始めるよりも終えるほうが難しい。

戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。

戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。

戦争は、操作の対象物ではない。

生命は、誰かの持ち物ではない。

血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、

知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい.

海は、基地に押しつぶされてはならない.
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない.

学問は、戦争の武器ではない.
学問は、商売の道具ではない.
学問は、権力の下僕ではない.

生きる場所と考える自由を守り、創るために、
わたしたちはまず、思いあがった権力に
くさびを打ちこまなくてはならない.

最後に、**僕のアピール**です.

希望、それは あなた
命つなぐ あなた
愛育む あなた
今を生きる あなた

暴力を受けたことを 忘れない
暴力をふるった人らを 許さない
暴力なくすためには 黙らない
暴力なくすまでは 屈しない

尊厳ある 個人のわたし
主権者の誇りある わたし
未来を信じ 未来に生きる

未来を選ぼう
希望を創ろう
無関心は戦争の味方
傍観は平和の敵
棄権は未来の喪失

あなたの未来 わたしの未来
学問の未来 労働の未来
拓くのは あなたとわたし

支部関連行事の案内

1. 7月読書会

日時：7月21日（木） 15:00～17:30

場所：京都支部事務所

「日本の科学者」6月号「ひきこもり研究は今」

漆葉論文：福島；原論文：清水；藤本論文：藤本

2. 第3回京都支部幹事会

日時：7月21日（木） 18:00～20:00

場所：京都支部事務所

3. 原発ゼロ左京の会第22回連続学習会

日時：2016年7月21日（木） 18:30～20:30

場所：京都教育文化センター

内容：変動する日本列島と原発の可能性

講師：亀井成美さん

共催：京都支部脱原発研究会

4. 近畿地区会議

日時：7月23日（土） 13:00～

場所：大阪支部事務所

2016 年度第 1 回近畿地区サポーター会議報告

2016 年度の JJS 近畿地区サポーター会議は、京都支部事務所を主たる会場にして開催することになり、第 1 回が 6 月 25 日に開催された。世話役の前田を含めて京都支部から 3 名、大阪支部から 2 名、兵庫支部から 1 名の 6 名が出席し、約 3 時間の討議を行った。

恒例にしたがって、初参加者の自己紹介も含めて、めいめいが近況を披露した。大阪大学では学生を巻き込んで授業料免除や奨学金無利子化に関する勉強会を行ったことや京都工繊大では地域住民と科学トークカフェを継続的に開催していることなど、新しい活動が紹介された。

続いて、今期より編集委員を務める長野さんから、編集委員の構成が文系に偏っている点、企画・編集のスケジュールが大きく遅れている点などが報告された。

次に、『日本の科学者』の講評に移った。5 月号については、特集全体について、「節電のみを扱っていて狭すぎる、軽すぎる」「廃

棄物や化学物質排出など、環境を広く考える視点が必要ではないか」「記事の内容も重なり気味である」などの指摘があった。また、非会員の執筆が多すぎる点について、雑誌の性格をどのようにとらえるかという点で議論になった。6 月号については、「ひきこもり」について 4 つの論文が異なる角度から論じられていてよかったと好評であった。藤本論文のなかの「小中一貫校」と「青年期の発達」との関係について時期がずれているのではないかという指摘から議論が白熱した。一つの特集のなかで、論文によるフォントの不統一は改善してほしい。全体として、略号、専門用語などの説明の不充分さが多数指摘され、解説頁を設けてはどうかという提案があった。

（文責・京工繊大分会 前田耕治）

◆◆◆幹事会・ワーキング会議だより◆◆◆

第 51 期（2016 年 5 月～2017 年 4 月）支部第 2 回幹事会（6/15）および第 2 回ワーキング会議（7/8）の報告

1. 会員の現況（2016年7月8日）

一般会員238，家族割り特別会費会員4，若手会員6，若手特別会費会員19

会員合計267, 読者3

2. 会費納入状況 (7月8日現在)

16年度会費納入者：一般 127/238, 家族割1/4, 若手0/6, 若手特別 1/19

15年度会費未納者：一般 15, 若手 1, 若手特別 7

14年度会費未納者：一般1, 若手特別2

3. 会員の拡大

年間12人の拡大を目標にしている.

現在, 入会希望者 1 名の入会審査を行っている.

4. 21総学の準備

第3回実行委員会が, 6月19日 (日) 13:00~16:00に龍谷大学深草学舎で開催され,
3rdサーキュラーの内容が議論された.

5. 支部事務所の工事

8月19日~8月29日, 支部事務所の壁クロス張替と床張替工事が行われる.

この間, 事務所の使用はできません.

6. 6月~7月の支部関連行事 (支部ニュース 6月号発行 (6/13) 以降)

6月15日 (水) 6月読書会@京都支部事務所

6月15日 (水) 支部幹事会@京都支部事務所

6月19日 (日) 21総学第3回実行委員会@龍谷大学深草学舎

6月25日 (土) JJS近畿地区サポーター会議@京都支部事務所

6月25日 (土) JSA活性化討論会@中央大学理工学部 (後楽園キャンパス)

7月2日 (土) 第17回自然科学懇談会@京大楽友会館

7月8日 (金) 支部ワーキング会議@京都支部事務所

7月10日 (日) 7・10 軍学共同反対懇話会@京都教育文化センター

7月10日 (日) 関西懇7月例会@大阪支部事務所

(文責 宗川・左近)

